記念誌の刊行にあたって

井出　多加子

武藤恭彦先生は，2013年3月に退職を迎えられた後も引き続き成蹊大学特別任用教授として本学の教育研究活動に従事してこられましたが，同教授としての任期は2016年3月末をもって満了となり，これを期に本学部専任教員の職から離れられることになりました。

武藤先生がお元気で任期満了を迎えられましたことを，心よりお喜び申し上げます。先生には長年にわたって，本学部のみならず成蹊学園全体の発展のために様々な面で多大な貢献をいただきました。まだまだ教育と研究にご熱心な先生が本学を去られますことは，痛惜に耐え得ないところであります。本学から離れられたのちも，現役の研究者として一層ご活躍くださることを期待しております。ここに改めて武藤先生に深く感謝するとともに，本誌を先生の退職記念号として捧げせていただきます。

武藤先生は，東京大学経済学部をご卒業後，東京大学大学院経済学研究科に入学されました。大学院入学後すぐに，スイスのジュネーブ国際研究所（Institut Universitaire de Hautes Etudes Internationals, IUHEI, Geneva）に移られ，1975年10月から1977年3月までIUHEIの助手を務められ，同大学で論文審査に合格されて学位（Docteur es Sciences Politique）を取得されました。

その後すぐに日本に帰国され，1977年からは日本経済研究センターの研究員を，1979年から1988年3月まで東京経済大学で専任講師と助教授を務められました。成蹊大学経済学部には1988年4月に経済学科教授として赴任されました。

成蹊大学に赴任後は，経済学部において金融論や国際金融論などの高学年配置の専門科目とともに，ミクロ経済学やマクロ経済学など大学で初めて経済学を学ぶ新入生向けの授業も数多く担当されました。また，成蹊教養カリキュラム等においても，他学部の学生に経済学の基礎を学ぶ授業を担当されてきました。

このように専門科目から基盤科目，教養科目まで幅広く成蹊大学経済学部の教育に尽力していただきましたが，経済学部ならびに成蹊大学や成蹊学園のマネジメントにおいても，実に多大な貢献を果たされました。経済学科主任，経済学部教務監事，教務連絡委員長を経て経済学部長を2007年度から2009年度まで務められました。さらに成蹊学園専務理事補佐

（2000 ～ 2004年度），成蹊学園国際研究センター所長（2004 ～ 2007年度），成蹊学園理事（2007 ～ 2009年度），成蹊大学副学長・成蹊学園理事（2009 ～ 2010年度），成蹊学園専務理事補佐，人権委員会委員長（2010 ～ 2014年度），と数えきれないほどの大学ならびに学園の重責を担ってくださいました。2013年度から成蹊大学特任教授となられ，この2016年3月に退任されることとなったのです。

武藤先生が成蹊大学に赴任された当時は，経済学部は経済学科と経営学科に分かれていました。その後組織改編やカリキュラム改革を経ながら，2004年には2学科が一つの学科に統合され，専門科目の再編とともに英語教育が全学的に見直されることになりました。そのような改革の流れの中で，武藤先生は国際教育センターの設立を進められました。英語教育の充実は大学の枠にとどまらず，より広い見地から学園全体の人的資源を有効に活用して質の高い英語教育を実践するための大きな礎となっています。大学だけでなく，小中高をまたぐ様々な調整や検討を行っていただき，本当に大変だったことと推察いたします。

このように大学と学園のマネジメントに手腕を発揮される一方で，武藤先生は金融政策に関する重要な研究者として，特に国際収支や資本移動，為替市場などに関する研究論文を数多く執筆されてきました。なかでも，1984年の“International Short Term Capital Flow and the Foreign Exchange Rate: Japan1973-1980”（The Economic Studies Quarterly）に出版された浜田宏一教授（東京大学名誉教授，イェール大学名誉教授）との共著，ならびに1987年の“On the Relation between Monetary Interdependence and Exchange Rate Volatility”（Journal of the Japanese and International Economics）の2つの論文は，私自身が大学院時代に金融論の授業課題で内容を発表させていただき，今でも強く記憶に残っています。

武藤先生は，私が成蹊大学に専任講師として赴任して以来，同じ経済学の研究者として，授業の進め方はもちろんのこと，学生や同僚の教員との付き合い方，学務そして研究の進め方など，多岐にわたりたくさんの真摯なアドバイスをくださいました。

先生は，穏やかな口調でニコニコ楽しそうにお話になりますが，眼光は鋭く，ご指摘は心からハットさせられるものばかりでした。そのお人柄を慕って，同じ学部の同僚だけでなく，他学部の先生方や成蹊学園職員の方々など学園全体から慕われています。研究棟の大学10号館ラウンジで先生がお話をされていると，いつの間にかたくさんのスタッフに取り囲まれ高らかにお笑いになっていらした光景が蘇ってまいります。

現在日本の大学は，18歳人口減少と学校教育法改正の荒波にさらされ，成蹊大学も構造的な改革を求められています。このような中で，大学運営に関する武藤先生の貴重なご経験を

もとに引き続きアドバイスを頂きたいと思っていましたが，しばらく休養をとられ，日本の古都や自然をゆっくり楽しみたいとの強いご希望でした。

経済学部専任教員に対する最終講演では，ミクロ経済学の基礎をなす消費者行動とリスクに深く関心を抱かれ，マクロ経済の潮流だけでなく経済学の基礎的アプローチをさらに掘り下げてみたいとお話になりました。強い信念を持ちながら深く研究を進めておられる研究者魂に，心が揺さぶられる思いがいたしました。

成蹊大学経済学部のスタッフを様々な面から支えていただき，また専任講師として本当に未熟であった私を育ててくださったことに本当に感謝いたします。

今後ともますますお元気に研究にご活躍されることを心からお祈りしております。

（成蹊大学経済学部長）